

令和7年度前期授業評価アンケート結果の概要と分析

令和7年度は質問内容を新たにして実施をした。学生が回答しやすい文言、教員が捉えたい内容の精査を行い設定した。また、総合評価として「授業の満足度」との項目を新たに追加した。

結果分析は、全体、子ども学科、キャリア育成学科（オフィスワークコース・介護福祉コース）について行った。昨年度前期と質問内容同一の場合はその比較を行った。

■ 全体

<授業への取組み（2項目）>

「(1) 私は、この授業の時間外学習（予習・復習、課題）を行った」については「そのとおり」「ややそのとおり」の肯定的評価比率が93.4%で昨年度と同比率、「(2) 私は、授業マナー（スマホ等の私用や私語などをしない）を守って受講した」では98.6%でこちらも昨年度とほぼ同比率（昨年度比+0.1ポイント）となった。

<教員による授業の進め方>（4項目）

4項目の「そのとおり」が78.2～79.8%（昨年度85.1～88.9%）、「ややそのとおり」を併せると肯定的評価比率は全項目ほぼ97%程であり、高評価であった。その中でも否定的評価比率が高かったのは「(2) テキスト使用や板書、スライド資料（パワーポイント）等は効果的だった」で3.1%であった。

<授業で得たこと>（3項目）

項目(1)(2)(3)順の肯定的評価比率が97.2%、96.7%、98.1%と高水準であった。その中でも否定的評価の比率が高かったのは「(2) この授業内容に興味・関心を持った」で3.2%だった。

<授業の満足度>

評価比率は、「とても満足している」が76.9%、「満足している」は20.6%、「あまり満足していない」が1.9%、「満足していない」であった。

以上、全般的に高い評価ではあったが、授業の満足度の結果において否定的評価比率が2.5%、実数にすると130名（回答総数:5204名）ではある。これらも踏まえ、今後も学生が意欲的、主体的に学べる授業運営方法であったか振り返ることが必要である。

■ 子ども学科

<授業へのあなたの取組みについて>（2項目）

「(1) 私は、この授業の時間外学習（予習・復習、課題）を行った」については、肯定的評価比率が1年生では92.5%、2年生94.8%と昨年度と同じく90%超の高い自己評価といえる。「(2) 私は、授業マナー（スマホ等の私用や私語などをしない）を守って受講した」については、肯定的評価比率が1年生98.5%、2年生98.9%とかなり高い自己評価であった。

<教員による授業の進め方について>（4項目）

4項目について、1年生の肯定的評価比率は「そのとおり」が75.1～77.5%（昨年度89.2～92.8%）で「ややそのとおり」を含めると全項目96%程、2年生は「そのとおり」が82.5～83.4%（昨年度79.8～85.4%）で「ややそのとおり」を含めると98%超で高水準であった。「そのとおり」の結果を1年、2年比較すると1年生の方が低下している。

<授業で得たこと（3項目）>

1年生の肯定的評価比率は、「そのとおり」が項目(1)(2)(3)の順に、66.3%、70.9%、78.9%、2年生は、72.6%、78.0%、82.8%であり、学年間で差があった。肯定的評価「そのとおり」「ややそのとおり」は、1年生、2年生とも全項目95%超で昨年同様に高評価であった。否定的評価については、1年生の「(2) この授業内容に興味・関心を持った」が4.4%で1年生の他項目及び2年生と比較して最も高かった。

<授業の満足度>

全体では「とても満足している」は80.1%、「満足している」17.0%、「あまり満足していない」2.0%、「満足していない」0.9%との結果となった。1年生の結果を捉えると「とても満足している」73.8%、「満足している」22.7%、「あまり満足していない」2.7%、「満足していない」0.8%、との結果で、1年生の方が「とても満足している」の割合が低かった。

以上、肯定的評価の「そのとおり」と「ややそのとおり」、「とても満足している」と「満足している」の評価比率を学年別に窺うと2年生よりも1年生が全般的に低かった。また、授業で得たことの「(2) この授業内容に興味・関心を持った」の否定的評価比率が比較的高いことから、大学の授業方法・内容とこれまでの授業とにギャップがあるのではないかと推測する。後期の結果を注視したい。

■キャリア育成学科

<授業への取組み（2項目）>

学科全体において「(1) 私は、この授業の時間外学習（予習・復習、課題）を行った」の肯定的評価比率が90.9%、「(2) 私は、授業マナー（スマホ等の私用や私語などをしない）を守って受講した」では98.5%であった。昨年度との比較では、それぞれ-1.8ポイント、+0.1ポイントとほぼ同水準であった。以下ではコース別に検討する。

オフィスワークコースでは、「(1) 私は、この授業の時間外学習（予習・復習、課題）を行った」の肯定的評価比率が1年生89.0%、2年生94.6%であった。昨年度との比較では、1年生で-6.4ポイント、2年生で-0.5ポイント減少した。「(2) 私は、授業マナー（スマホ等の私用や私語などをしない）を守って受講した」においては、肯定的評価比率が1年生98.3%、2年生98.2%であった。昨年度との比較では、1年生で-0.6ポイント、2年生で-1.8ポイント減少した。

介護福祉コースでは、「(1) 私は、この授業の時間外学習（予習・復習、課題）を行った」の肯定的評価比率が1年生94.4%、2年生95.5%であった。昨年度との比較では、1年生で+4.0ポイント増加し、2年生で-2.2ポイント減少した。「(2) 私は、授業マナー（スマホ等の私用や私語などをしない）を守って受講した」では1年生98.2%、2年生99.0%となった。昨年度との比較では、1年生で+2.0ポイント増加し、2年生で-0.1ポイントの減少がみられた。

介護福祉コース1年生は昨年度より改善したものの、他は昨年度より低下する結果となった。特にオフィスワークコース1年生で時間外学習についての項目が大きく低下している点が気がかかりであり、今後の対策が求められる。

<教員の授業の進め方（4項目）>

学科全体においては、全4項目の肯定的評価比率は、1年生97.4%~98.2%、2年生98.8%~99.5%であった。昨年度は1年生で97.9%~98.9%、2年生で98.1%~99.4%であり、昨年と比較すると1年生はやや評価が下がったものの2年生は高評価であった。また「そのとおり」の比率については、全4項目について一番高評価だったのが、両学年共「(3)教員の授業を行う態度（話し方、接し方など）、学生への対応は適切だった（1年生72.1%、2年生82.8%）」であった。一方、低い評価だったのが、1年生では、「(1)シラバスに沿い、ねらい等を明確にして行われた（1年生69.3%）」、2年生では「(4)教員は、学生が深く考えたり、その考えを表現したりするなど、主体的に授業参加できるよう配慮しましたか（2年生81.6%）」であった。以下ではコース別に検討する。

オフィスワークコースでは、全4項目の肯定的評価比率が1年生97.3%~97.9%、2年生99.2%~99.8%の結果となった。昨年度は、1年生98.1%~99.0%、2年生97.3%~98.9%であり、昨年と比較すると1年生はやや低下した一方、2年生は高評価であった。また「そのとおり」の比率については、全4項目について一番高評価だったのが、1年生では「(2)テキスト使用や板書、スライド資料（パワーポイント）等は効果的だった（1年生71.5%）」であった。2年生では「(3)教員の授業を行う態度（話し方、接し方など）、学生への対応は適切だった（2年生79.0%）」であった。一方、1年生で低い評価だったのが、「(1)シラバスに沿い、ねらい等を明確にして行われた（1年生67.4%）」であった。2年生では残りの3項目はいずれも76.6%であった。

介護福祉コースでは、全4項目の肯定的評価比率が1年生97.3%~99.4%、2年生98.3%~99.8%であった。昨年度は、1年生96.2%~98.6%、2年生98.8%~99.8%であり、1年生は昨年度よりも高評価であり、2年生はやや低下した。「そのとおり」の比率については、4項目について一番高評価だったのが、1年生では「(3)教員の授業を行う態度（話し方、接し方など）、学生への対応は適切だった（1年生75.0%）」であった。2年生では「(2)テキスト使用や板書、スライド資料（パワーポイント）等は効果的だった（2年生87.1%）」であった。一方、低い評価だったのが、1年生では「(2)テキスト使用や板書、スライド資料（パワーポイント）等は効果的だった（1年生70.1%）」であり、2年生では、「(4)教員は、学生が深く考えたり、その考えを表現したりするなど、主体的に授業参加できるよう配慮しましたか（2年生85.3%）」であった。

この4項目のアンケートについて、両コースとも1年生よりも2年生の評価の方が高くなった。オフィスワークコースは、従来の傾向とは逆となり、介護福祉コースは、昨年度と同様の傾向であった。取り立てて肯定的評価の低い項目はないが、今後も授業方法等を工夫するなどの取り組みが必要である。

<授業で得たこと（3項目）>

学科全体においては、全3項目の肯定的評価比率が1年生95.8%~97.5%、2年生98.1%~99.1%の結果であった。昨年度は1年生で94.3%~98.1%で2年生96.6%~99.3%あり、両学年とも昨年と変わらず高評価であった。「そのとおり」の比率については、全3項目について一番高評価だったのが、両学年共「(3)この授業で得られたことは、今後に活かすことができる（1年生72.3%、

2年生 80.2%)」であった。一方、低い評価だったのが、両学年共「(1)この授業の到達目標に近づくことができた(1年生 57.8%、2年生 72.1%)」であった。以下ではコース別に検討する。

オフィスワークコースでは、全3項目の肯定的評価比率が1年生 92.6%~98.4%、2年生 94.3%~98.6%であった。「そのとおり」の比率については、全3項目について一番高評価だったのが、両学年共「(3)この授業で得られたことは、今後活かすことができる(1年生 69.7%、2年生 72.7%)」であった。一方、低い評価だったのが、両学年共「(1)この授業の到達目標に近づくことができた(1年生 54.5%、2年生 62.1%)」であった。

介護福祉コースでは、全3項目の肯定的評価比率が1年生 96.7~98.0%、2年生 98.9~99.4%であった。「そのとおり」の比率については、全3項目について一番高評価だったのが、両学年共「(3)この授業で得られたことは、今後活かすことができる(1年生 76.8%、2年生 85.9%)」であった。一方、低い評価だったのが、両学年共「(1)この授業の到達目標に近づくことができた(1年生 63.4%、2年生 79.6%)」であった。

昨年度高評価が多かった反動もあり、学年・コースによってばらつきが見られ、昨年度より低下する項目も散見された。各コースにおいて、今回の結果を踏まえ学修成果の向上に向けた取り組みを検討する必要がある。

<授業の満足度>

キャリア育成学科全体では、2年生の肯定的評価の比率が 99.3%、1年生は 97.2%となり、2年生の方が高評価であった。

オフィスワークコースでは、2年生の肯定的評価の比率が 99.7%、1年生は 96.6%、介護福祉コースでは、2年生が 99.0%、1年生が 98.2%であった。両コース、両学年とも 96%の高い割合となったが、2年生の方が若干上回った。また、「満足していない」という回答が2年生には全くなかったのに対し、1年生では、両コースにそれぞれ2名あった。

以上、令和7年度前期のキャリア育成学科のアンケートでは、昨年度より肯定的評価の割合が低下した項目はあったものの、全体としては高評価が得られた。しかし、改善が求められる項目もあり、今後、時間外学習の徹底や授業方法の改善などに努めていく必要がある。